

# 地理 B

## 1 地域調査に基づき生徒自ら課題追究することに配慮した授業展開例

＜主題＞ 地域調査を用いた身近な地域の人口特性の考察

＜解説＞ 生徒に「向こう三軒両隣（無作為）の5軒の家族の性別と年齢」を調査することで地域社会の高齢化の状況を把握させる。岐阜県において飛騨地方と同じように過疎化が進行している地域では、高齢化の進行も課題となってくるであろう。体験的な地域調査を実施することで地域に関心を持たせ、生徒自ら地域的課題を追究する力を養わせたい。

## 2 視聴覚教材を利用して国家の特性を考察することに配慮した授業展開例

＜主題＞ VTR と写真等の視聴覚教材を用いた国家の地誌的考察

＜解説＞ 旧東ドイツは旧西ドイツとの統合によってどのような変貌をしたのだろうか。6枚の写真から旧東ドイツが統一後も経済発展が滞っていることを理解する。また旧西ドイツにおいても統一により経済が停滞していることと生活環境の変化について理解し、ヨーロッパにおける統一ドイツの役割について関心を持たせたい。

## 3 地図を利用して地理的事象の関連性に主題をおいた授業展開例

＜主題＞ モンスーンアジアにおける稲作の重要性を考慮した人口稠密地域の分析

＜解説＞ 人口稠密地域は全地球的には温帯気候に分布しているが、アジアにおいては熱帯であるインドと東南アジアにも分布している。アジアのモンスーン地域を考察することで、人口の稠密は気候だけでなく、モンスーン地域における稲作文化が関わっていることを理解させる。また人口が多いことが、その地域の豊かさを示す指標であることを理解させたい。

## 4 資料を利用して地域の特性に興味を持たせることに配慮した授業展開例

＜主題＞ 飛騨の自然環境を生かした農業の特性

＜解説＞ 飛騨の産業は農業が基幹である。多くの村が「過疎の山村」であり、気候的にも地形的にも良い条件とはいえないが、それを克服して飛騨は“日本一のトマト”の生産地となっている。そのなかでも人口約4700人の丹生川村が、日本一といえるトマトの生産地となったことを考察することで、農業と自然環境とのかかわりについて理解し、世界の農業地域についての学習の序章としたい。

# 1 地域調査に基づき生徒自ら課題追究することに配慮した授業展開例

|                                |                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                                  |                                                                                                     |
|--------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 教科(科目)                         | 地歴（地理B）                                                                                                                                    | 単元名                                                                                                                                                                                                                                                    | 身近な地域を調べる                                                                                                                                                                                                                        | 本時（ 2 時間目／3 時間）                                                                                     |
| 本時の主題                          |                                                                                                                                            | 地域調査を用いた身近な地域の人口特性の考察                                                                                                                                                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                                                  |                                                                                                     |
| 本時の目標                          | (1)人口の調査によって、地域的現象や問題に関心をもつ。【関心・意欲・態度】<br>(2)実際に簡単な調査を体験させることによって、地域調査の方法を身に付ける。【技能・表現】<br>(2)過疎問題を生徒の聞き取り調査によって、高齢問題とかかわりを持たせ考察する。【思考・判断】 |                                                                                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                                  |                                                                                                     |
| 指導のねらい                         |                                                                                                                                            | 学 習 活 動                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                                  | 指導上の留意点・観点別評価                                                                                       |
| ・人口ピラミッドの復習                    |                                                                                                                                            | ・主な人口ピラミッド模式図（富士山型・釣鐘型・ひょうたん型・星型など）の形とその特徴を確認する。                                                                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                                                                                                  | ・模式図の持っている意味を確認する。                                                                                  |
| ・クラスの人口ピラミッドを作る。               |                                                                                                                                            | ○「向こう3軒両隣」の家族構成（性別と年齢）を聞き取りした時の感想を発表する。<br><div>Question 1<br/>聞き取りはうまくできましたか。</div><br>S：①お母さんに手伝ってもらった。②何に使うのか聞かれた。③留守の家があって困った。<br>・10円玉くらいの大きさのマグネットを利用して3年B組人口ピラミッドを作成する。                                                                         |                                                                                                                                                                                                                                  | Q1…簡単な調査であるが、向こう3軒両隣は“無作為”のための手段であり、聞き取りする場合、相手に迷惑をかけないことが大切であることなどを理解させる。【関】<br>〈評価方法〉<br>発問・挙手・発表 |
| 10分（経過時間）                      | ・作成した3年B組人口ピラミッドのくびれている箇所についてその理由を考えさせる。                                                                                                   |                                                                                                                                                                                                                                                        | ○益田高校3年B組人口ピラミッドの人口特性を考察する。<br><div>Question 2<br/>この人口ピラミッドの特徴は何ですか。<br/>この形に呼び名を付けよう。</div><br>S：①21歳から25歳の人がとても少ない。<br>②男の人が女の人より少ない。<br>③60代から70代の人が多い。（高齢化が進んでいる）<br>④10代の人数が少ない。「逆三角形」型<br>→若年・壮年層の転出（第1の過疎）が進んでいることを理解する。 | Q2…作成した人口ピラミッドは若年層が薄く、高齢層が厚い特徴があることを確認する。【技】<br>〈評価方法〉<br>発問・挙手・発表                                  |
| 25分                            | ・岐阜県における高齢化の進行について考察させる。                                                                                                                   |                                                                                                                                                                                                                                                        | ○岐阜県の高齢化率の進行を理解する。<br><div>Question 3<br/>岐阜県の高齢化地域の分布図から読み取れることは何か。</div><br>S：①高齢化率の低い地域は愛知県と接している地域である。<br>②高齢化率が45%を越えている地域がある。<br>・過疎地域は岐阜県において農山村地域である事を確認する。                                                              |                                                                                                     |
| ・高齢化の進行している地域（＝自分域）の問題点を考える。   |                                                                                                                                            | ○過疎地の高齢化が今後どのような問題を引き起すのか予想する。<br><div>Question 4<br/>10年後の人口ピラミッドはどうなっているのか、予想してみよう。</div><br>S：①もっと高齢化が進んでいる。<br>②私たちの町は年寄りばかりの地域になっている。<br>③仕事があれば地元に戻ってきたい。<br>・高齢者の転出(第2の過疎)が進行していることを理解させる。<br>・U、J、I ターンを時間軸で理解させる。<br>・自分の将来設計や家族の将来について考えてみる。 |                                                                                                                                                                                                                                  | Q4…そこに住む人々の生活を考えることで、地域の問題点（交高齢者への対応）について考える。<br>・また自分の将来計画を考え地元へ貢献できる方策を模索する。                      |
| 45分                            |                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                                  | ○ミニ論文で考えをまとめさせ、事後に確認する。【思】                                                                          |
| ・自分の住む町村はどうなっていくか考えさせる。<br>50分 |                                                                                                                                            | ・市町村合併や介護福祉に興味をつなげる。                                                                                                                                                                                                                                   |                                                                                                                                                                                                                                  | ・益田郡（4町1村）のそれぞれの人口ピラミッドを提示する。                                                                       |

\* S : 生徒の考察と活動      \* 番号①、②、③等は予想される意見

<指導上のポイントと考察>

- ・身近な視点から地域社会を見る力を育てることをねらいとしている。そして、生徒が生き生きと活動し、おもしろい授業となるように次の点を考慮した。
- (1) 『どのようにしたら、生徒が授業に参加できるか。』 そのために、授業の中で個人の調査をもとにクラス(全体)のグラフを作らせた。あらかじめ作成したアンケート用紙に、向かい3軒両隣の合計5軒の家族の性別と年齢を調べさせ、一人一人が5歳区切りのグラフにマグネット板を貼り付けることにした。(授業参加の動機付け)  
 グラフは新聞紙より少し大きいくらいとし、特徴的な箇所(=S22~24年の第一次ベビーブーム・S46~49年の第二次ベビーブーム、S41年の丙午の迷信)についてその理由について発問し解説を行った。
- (2) 『どのようにしたら、生徒が問題を自分と結びつけて考えられるか』 そのために、家庭・役場での聞き取りをもとにした授業とした。この聞き取り調査では、高齢化の進んでいる過疎地域の人口ピラミッドが、いわゆる「ひょうたん型」ではなく、もっと進行した「逆ピラミッド」型となっていることを実証し、その意味付けとなることを期待した。
- ・聞き取り調査を授業に取り入れる場合には、①何を調査したいか。(過疎地域の人口ピラミッド)②どの地域を対象とするのか。(益田郡)③どのような方法で調査するのか。(生徒が調査アンケートを行う)④人数割りをどうするのか。(1人5軒を担当し、無作為抽出に近づける)⑤調査結果のまとめ方はどうするのか。(人口ピラミッドグラフを作成する)を生徒に指示できるようにしておく必要がある。  
 また、聞き取り調査の心得として、①相手を思いやる気持ちと相手に迷惑をかけない気持ちを大切にすること。②聞き取りしたい事柄は、こちらの興味・関心・知識などの量的能力に比例して得られるので、生徒の事前学習がものを言うことを肝に銘じたい。

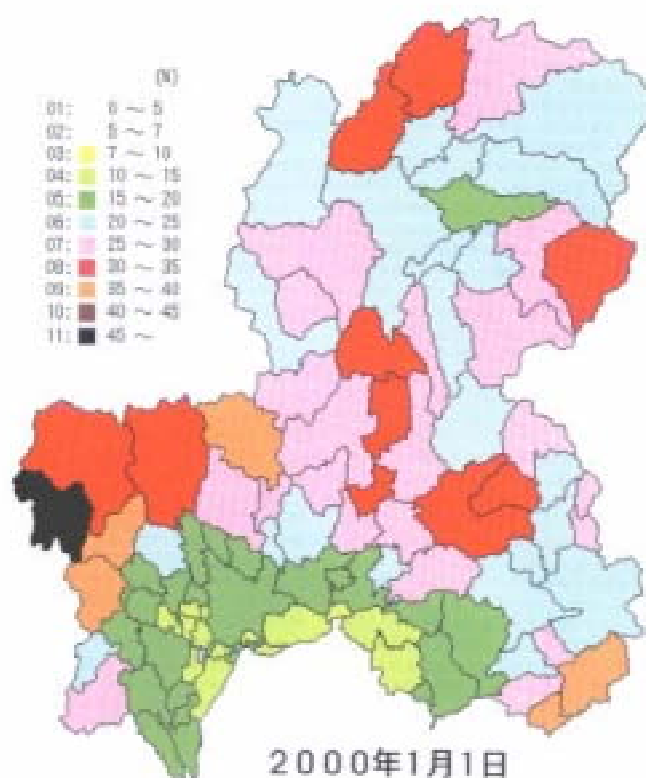
注(1) 向こう3軒両隣の家族の年齢調査を集計すると、単なる数字の並びの中からその地域の家庭状況が見えてくる。

また、生徒に調査結果に関しての感想を聞くと、高齢化や過疎化について分析的な意見も出てくる。

注(2) 日本、岐阜県についての分布図を作成するパソコンソフトは岐阜県図書館から入手できる。詳しくは『分布図研究会研究紀要』(H10~12)にある。

注(3) 第2の過疎については今後過疎地域においては、深刻な問題となるであろう。  
 「生まれ育ったところで老後が過ごせるのか、特に体が不自由になってから生活していけるのか。」という問題であり、山間の過疎の村では息子や娘を頼って都会生活を余儀なく強いられている現実もある。

注(4) 1枚の地図を平らに広げ、その上に垂直な1本の棒を立て、その棒に0歳から90歳程度を目盛りを刻む。棒のメモリで測った高さが年齢を表すと考えると、ある人が何歳の時にどこにいたかという情報を、地図上に3次元の広がる立体グラフの中に書き込むことができる。このようにしてU・J・Iターンを説明するとアルファベットの形と人の移動現象がうまく説明できる。



2000年1月1日

2000年の岐阜県

高齢化率の分布図

<単元「地域調査」の指導計画(全3時間)>

- 1時間目 「地域調査の進め方」
- 2時間目 「身近な地域を調べる」(本時)
- 3時間目 「資料調査の進め方」

地理 B

資料（1）3年B組の調査結果

この表の見方は、行の欄にあるA～Nまでが調査をした生徒を示し、列にある1～5までが向こう三軒両隣の合計5軒の世帯を示している。例えば、A-1のマトリクスにある3つの数字（73,43,70）は、調査した世帯が3人家族であることを示し、上の段（73,43）が男性の年齢、下の段（70）が女性の年齢を示している。

|   |    | 1        | 2         | 3           | 4        | 5        |
|---|----|----------|-----------|-------------|----------|----------|
| A | 男女 | 73 43    | 85 54     | 43 15       | 27 24    | 84 50    |
|   | 男女 | 70       | 109 82 52 | 39 13       | 50 25 2  | 75 48    |
| B | 男女 | 72 45 14 | 45 6      | 73          | 49 14    | 81 51    |
|   | 男女 | 73 42 11 | 40 12 9   | 69          | 75       | 77 43 17 |
| C | 男女 | 43 70 11 | 49 74 17  | 58 25       | 54 21    | 51       |
|   | 男女 | 36 66 13 | 47 71 12  | 78 53       | 48 25    | 78 52    |
| D | 男女 | 62       | 42        |             | 39 13 8  | 74       |
|   | 男女 | 57       | 38        | 77          | 37 10    | 65       |
| E | 男女 | 38 12 68 | 53 8      | 75 31 5     | 50 16    | 58       |
|   | 男女 | 38 13    | 50 19     | 70 28       | 42       | 57       |
| F | 男女 | 50 65    | 70 30     | 55 30       | 70 40    | 50 70    |
|   | 男女 | 47 14    | 65        | 50 30       | 70 12 35 | 20 15 65 |
| G | 男女 | 84       | 12 17 42  | 54          |          |          |
|   | 男女 | 75       | 41 67     | 45          | 66       |          |
| H | 男女 | 63       |           | 49          | 72 42    | 78 43    |
|   | 男女 | 61       | 83 57     | 49          | 67 36 5  | 72 37 13 |
| I | 男女 | 49 78    | 17 50 76  | 11 15 17 44 | 5 43 70  |          |
|   | 男女 | 49 76    | 15 44 76  | 12 44 70    | 10 13 43 |          |
| J | 男女 | 50       | 14 76 50  | 70          | 30       | 64       |
|   | 男女 | 47 80    | 72 46     | 72          | 59       | 61       |
| K | 男女 | 65       | 33        | 68 15       |          | 75       |
|   | 男女 | 59       | 33 5 4    | 65 39 36    | 73       | 70       |
| L | 男女 | 45       |           | 65 30       | 60 32    | 50       |
|   | 男女 | 40       | 80        | 60 28 2     | 60 34 2  | 45 80 18 |
| M | 男女 |          | 60        | 68          | 4 56     | 4 23     |
|   | 男女 | 55       | 60        | 55          | 30 54    | 7 29     |
| N | 男女 | 73 28    | 73        | 76          | 73 39    | 30 3     |
|   | 男女 | 63 30    | 71        | 73          |          | 25       |

資料（2）3年B組の調査結果から人口ピラミッドを作成

\*高齢者の多い状況がわかる。 高齢化率=31.9% （2000年現在の岐阜県の高齢化率は17.9%）

| 男     | 女             | 年齢  | 男   | 女   |
|-------|---------------|-----|-----|-----|
|       | 110 ~ 106 *   | 110 | 0   | 1   |
|       | 105 ~ 101     | 105 | 0   | 0   |
|       | 100 ~ 96      | 100 | 0   | 0   |
| *     | 95 ~ 91 *     | 95  | 1   | 1   |
| **    | 90 ~ 86       | 90  | 2   | 0   |
| ***** | 85 ~ 81 **    | 85  | 5   | 2   |
| ***** | 80 ~ 76 ***** | 80  | 8   | 15  |
| ***** | 75 ~ 71 ***** | 75  | 18  | 17  |
| ***** | 70 ~ 66 ***** | 70  | 17  | 18  |
| ***** | 65 ~ 61 ***** | 65  | 11  | 13  |
| ***** | 60 ~ 56 ***** | 60  | 6   | 11  |
| ***** | 55 ~ 51 ***** | 55  | 11  | 10  |
| ***** | 50 ~ 46 ***** | 50  | 20  | 20  |
| ***** | 45 ~ 41 ***** | 45  | 19  | 13  |
| ***** | 40 ~ 36 ***** | 40  | 10  | 16  |
| ***** | 35 ~ 31 ***** | 35  | 7   | 9   |
| ***** | 30 ~ 26 ***** | 30  | 13  | 9   |
| ***** | 25 ~ 21 ****  | 25  | 6   | 4   |
| ***** | 20 ~ 16 ***** | 20  | 12  | 8   |
| ***** | 15 ~ 11 ***** | 15  | 18  | 21  |
| ***** | 10 ~ 6 *****  | 10  | 5   | 9   |
| ***** | 5 ~ 0 *****   | 5   | 5   | 13  |
|       |               | 計   | 194 | 210 |

## 2 視聴覚教材を利用して国家の特性を考察することに配慮した学習指導案

| 教科(科目)                                                                                                                                                                                  | 地歴 (地理 B)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | 単元名                                                                                                                                                                                                                      | ゲルマン系民族の生活と文化 本時( 5 時間目 / 7 時間) |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------|
| 本時の主題                                                                                                                                                                                   | V T R と写真等の視聴覚教材を用いた国家の地誌的考察                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                                          |                                 |
| 本時の目標                                                                                                                                                                                   | (1) ドイツ人を事例としてゲルマン系の人々の生活文化について関心をもつ。 【関心・意欲・態度】<br>(2) 旧東西ドイツの写真から統一後も依然として残る東西格差について理解する。 【知識・理解】<br>(3) 東西ドイツ統一後の生活変化を考察させ、統一後の諸問題を把握させる。 【思考・判断】                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |                                                                                                                                                                                                                          |                                 |
| 指導のねらい                                                                                                                                                                                  | 学 習 活 動                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 指導上の留意点・観点別評価                                                                                                                                                                                                            |                                 |
| ・ゲルマン系の人々の分布を理解する。                                                                                                                                                                      | 地図帳でドイツの位置を確認する。<br>→首都ベルリンはヨーロッパの中心といえることに気付く                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | 学習対象地域と空間を理解する。                                                                                                                                                                                                          |                                 |
| ・ドイツ人生活の概略を知る。<br>(ドイツの地形と気候をどのように生活に利用しているのか考えさせる。) 20分(経過時間)<br>・6枚の写真から統一後の旧西ドイツと旧東ドイツの現状の差について考える。<br>・写真1・2・3・4から旧西ドイツの特徴を考察する。<br>・写真5・6から旧東ドイツの特徴を考察する。<br>・統合されたことによる問題点を考えさせる。 | ○V T R 中のドイツの食文化からドイツの風土を理解する。<br><div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;">             Question 1<br/>             V T R 「人間は何を食べてきたのか」を視聴し、ドイツの人々の生活を考えよう。           </div> S : ①ハム作りは普段の生活の中にある。<br>②ハムは贅沢品ではない。<br>③ドイツの夕食は質素である。<br>※ドイツの厳しい風土を反映している食べ物としてハムの他にジャガイモ、黒パン、ビールがある。<br>※豚はやせた土地の雑草や森の木の実で育つ家畜である。<br>※冷蔵庫などのない時代から、冬の間のための保存食がハム・ソーセージなどであった。<br>○写真から統一後も格差の残っているドイツの様子を理解する。<br><div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;">             Question 2<br/>             6枚の写真は旧西ドイツと旧東ドイツのどちらか、その理由も考えよう。           </div> 考察の観点として<br>(1) 何が写っているのか。<br>(2) 特色は何か。<br>(3) 旧西ドイツと旧東ドイツのどちらか。<br>※写真のポイントと場所は以下の通りである。<br>写真1は広場と市庁舎(ミュンヘン)<br>写真2は活発な消費行動の様子(ボン)<br>写真3は公園でくつろいでいる人々(ハンブルク)<br>写真4はガストアルバイターの子ども(ゴスラー)<br>写真5は古い住宅(ガーデブッシュ)<br>写真6は都心にある住宅地(旧ベルリン)<br>○東西ドイツ統一における課題を考察する。<br><div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;">             Question 3<br/>             東西ドイツの統合は旧西ドイツと旧東ドイツの人々の生活にどのような変化をもたらしたか。           </div> 『旧西ドイツ』の変化<br>①旧東ドイツから通勤、買い物の自動車による交通渋滞・自動車事故・騒音・排気ガスなどの深刻さ<br>②統合による特需と財政赤字による物価の上昇<br>③増税、社会保障費の値上げ<br>『旧東ドイツ』の変化<br>①失業者の増大と外国人排斥の風潮<br>②交通渋滞・自動車事故・大気汚染の発生 | ○V T R の視聴は、10分程度とする。<br>Q1…発言から資料読解能力と表現力を観る。 【関】<br><評価の方法><br>発問・挙手・発表<br>Q2…写真の中に旧東ドイツまたは旧西ドイツとなる根拠を考えさせながら、東西の地域格差について理解する。 【知】<br><評価の方法><br>発問・挙手・発表<br>Q3…旧東西ドイツにおいて統合後の課題が多いことを確認する。 【知】<br><評価の方法><br>発問・挙手・発表 |                                 |

資料

注  
(1)

|                        |                                                                                                                                                                                                                                                                       |                                                                                  |
|------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------|
| 45分                    | <p>③ ”シュタージ（国家秘密警察）症候群 ”</p> <p>④旧東ドイツ人の劣等感と旧西ドイツ人の優越感<br/>→統合が順調に進んでいないことを理解させる。</p>                                                                                                                                                                                 |                                                                                  |
| ・ 今後のヨーロッパについて関心をつなげる。 | <p>○今後ドイツがどのような形で統一を進めていくのか考察する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>Question4<br/>これからドイツはどうなっていくのか考えよう。</p> </div> <p>ドイツでは、オシー（Ossi）、ヴェシー（Wessi）という言葉が流行していることを紹介し、今後それをどう克服していくかが統一ドイツの課題であり、本時の学習内容からEUによるヨーロッパ統合の課題を推察し、次時への課題とする。</p> | <p>Q4…本時の学習内容を確認し、次時以降の問題提起を行う。<br/>○ミニ論文で考えをまとめる。<br/>【思】</p> <p>・ ユーロ紙幣の提示</p> |

<指導上のポイントと考察>

- (1) 本授業は視聴覚教材を授業で有効に活用することをねらいとして授業を展開している。そのために教材の厳選を行った。VTRについては、『人間は何を食べてきたか 肉編』を導入的に使用している。  
また、写真については、岐阜大学小林浩二先生よりお借りした。写真を選んだ観点は、典型的なドイツの景観が見られるものとした。
- (2) 授業では、6枚の写真を使用しているが、1枚の写真から読み取れる情報はたくさんある。写っている人の様子や表情、建物の形などに興味・関心を持たせ、そこからいろいろ思考・判断する力を育てたい。
- (3) 統合ドイツは、旧西ドイツと旧東ドイツから構成されていること、すなわち、過去40年以上にわたって政治・経済・社会体制がまったく異なった二つの国からなっていることを確認する。
- (4) 統合後、二つの国が”統合”に向かって歩み始めているが、それは旧西ドイツが旧東ドイツを併合する形で実現したといえる。したがって、大きく見れば旧東ドイツが「旧西ドイツ化」することになることを理解させる。

資料 ドイツの様子（統合後のドイツ）



写真1 ミュンヘン

まるい帽子をかぶった二つの塔の建物は15世紀に建てられたフラウエン教会でミュンヘンのシンボルとなっている。大きな時計台のある市庁舎の前の広場には、多くの市民や観光客が訪れている。



写真2 ボンの再開発（旧西ドイツ）

伝統的な建造物や通りの改修、歩行者専用の道路の拡大が実施されている。



写真3 ハンブルクの公園（旧西ドイツ）  
旧西ドイツの都市には、大きな都市公園が豊富に存在している。



写真4 ガストアルバイターの子供たち  
都市内部には、ガストアルバイターが多く居住している。



写真5 ガーデブシュの町並み  
旧東ドイツの都市には、このような古い住宅が多い。



写真6 旧東ベルリンの中心地  
旧東ドイツの都市は、画一的である。

<単元「人種・民族と国家」の指導計画（全7時間）>

- 1時間目 「人種と民族」
- 2時間目 「漢民族の生活と文化」 (VTR)
- 3時間目 「インドのヒンドゥー教徒の生活と文化」
- 4時間目 「アラブ民族の生活と文化」 (VTR)
- 5時間目 「ゲルマン系民族の生活と文化」 (本時)
- 6時間目 「ラテン系民族の生活と文化」
- 7時間目 「スラブ系民族の生活と文化」

注(1) ガストアルバイターとは、旧西ドイツに居住して働く外国人労働者であり、厳密には、募集国出身の労働者（労働協定を結んだ国からの労働者）をいう。1961年に「ベルリンの壁」が構築され、旧東ドイツから流入していた労働力が、ガストアルバイターに肩代わりされることになった。労働協約はイタリア（1955）、スペイン（1961）、ギリシア（1961）、トルコ（1964）、ポルトガル（1967）、ユーゴスラビア（1968）と締結された。ガストアルバイターを出身国別に見ると、1960年代半ばまでは、イタリア人、ギリシア人、スペイン人が卓越していたが、その後、トルコ人とユーゴスラビア人が増加している。なかでも、トルコ人の増加が一著しく、1987年に51.8万人になり、全ガストアルバイターの32.6%を占めている。現在ドイツでは、ガストアルバイターに対して、制限、帰国促進、融合の3つの基本政策をとっている。

注(2) オシー（Ossi）とは、旧西ドイツ人の旧東ドイツ人に対する呼び名、ヴェシー（Wessi）とは、旧東ドイツ人の旧西ドイツ人に対する呼び名である。いずれも相手を軽蔑、見下した言葉である。こうした言葉が生まれたのも、両者の亀裂、対立が深まっていることがわかる。

### 3 地図を利用して地理事象の関連性に主題をおいた授業展開例

| 教科(科目)                                                                                                      | 地歴 (地理 B)                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 単元名                                                                                                                                                                   | 世界の人口分布 本時( 1 時間目 / 4 時間) |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------|
| 本時の主題                                                                                                       | モンスーンアジアにおける稲作の重要性を考慮した人口稠密地域の分析                                                                                                                                                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                                       |                           |
| 本時の目標                                                                                                       | (1) 人口密度の高い地域が世界のどこに分布しているのか考察し、ほとんどが温帯であるが、アジア地域では特異的に熱帯地域であることに疑問を持ち、その理由について関心をもつ。【関心・意欲・態度】<br>(2) アジアにおいて人口密度が高い地域はモンスーンが卓越している地域に重なることを理解し、その地域における地域文化を考察する。【思考・判断】                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                       |                           |
| 指導のねらい                                                                                                      | 学 習 活 動                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 指導上の留意点・観点別評価                                                                                                                                                         |                           |
| ・世界の人口分布の概略を見る。                                                                                             | ・人口の多い国を答える。(上位 5 カ国程度)                                                                                                                                                                                                                                                                                               | ○地図帳で探させ、挙手等で自由に発表させる。                                                                                                                                                |                           |
| ・人口分布の不均一性を知り、その理由を考察する。<br><br>10分                                                                         | ○分布図から人口稠密地域を読み取る。(その 1)<br><br>Question 1<br>人口密度が高い地域は何処に分布しているだろうか。<br><br>S : ①地中海沿岸地域から西ヨーロッパ<br>②北アメリカ北東部<br>③中国東部から日本<br>④インドから東南アジアなど                                                                                                                                                                         | Q1…地図帳から人口密集地帯はどこか考える。【関】<br><br>〈評価方法〉<br>発問・挙手・発言                                                                                                                   | 資(1)<br>注(1)              |
| ・人口を多く支持するための要因を考察する。                                                                                       | ○人口稠密地帯の特色を自然環境と生産様式から考察する。<br><br>Question 2<br>それぞれの地域の人口密度が高い理由を考える。<br><br>S : ①' 温帯で先進工業地域<br>②' 温帯で先進工業地域<br>③' 温帯で先進工業地域<br>④' 熱帯で農業地域                                                                                                                                                                         | Q2…人口密度が高い地域の特性を考察する。【思】<br><br>〈評価方法〉<br>発問・挙手・発言                                                                                                                    | 注(2)<br>注(3)<br>注(4)      |
| ・熱帯地域を分析し多くの熱帯地域では人口希薄となっているが、東南アジアとインドが例外的であることに気付かせる。<br><br>・熱帯で人口密度の高い地域の特徴を考察する。<br><br>25分            | ○分布図から人口稠密地域を読み取る。(その 2)<br><br>Question 3<br>インド以外の熱帯地域の人口分布の状況はどうなっているか。(インドと同緯度地域についても考える)<br><br>S : ⑤ギニア湾あたりに少し人口密集地がある。<br>⑥ビルマ、タイ、カンボジア、インドネシアに人口集中地域がある。<br>⑦その他は人口稠密地域は見られない。<br>⑧インドと同緯度地域ではほとんど人口集中地域は見られない。(ナイル川と華南に人口密集地がある)                                                                             | Q3…人口密度が高い理由を考えさせ、④の特異性を掴ませることを目的に発言させる。<br><br>インド・東南アジアの人口が他の熱帯と比較してどうして多いのか不思議に感じさせることができるかがポイントである。<br><br>【関】<br>〈評価方法〉<br>発問・挙手・発言                              | 資(2)                      |
| ・アラビアから東アジアにかけて吹く風をモンスーンといい、モンスーン地帯の降水が人口集中の要因となっていることを理解させる。<br>・稲作が焼畑農業と同様に持続可能な農業であることを理解させる。<br><br>45分 | ○インドと東南アジアに多く分布しているものを探すことで、熱帯の自然環境は生活するのに適していないのに、どうしてインドと東南アジアでは多くの人口を支えることができるのか考察する。<br><br>Question 4<br>人口密度の分布に似た分布図を探そう。<br><br>S : ⑨世界の気温と降水量<br>⑩特に 7 月の降水量<br><br>○土地が水浸しになるような環境で、そこに住んでいる人々は何をして生活しているか考察する。<br><br>Question 5<br>夏降水量が多いことを考慮して、どのような理由でアジアの人口集中地域が形成されているのか考えよう。<br><br>S : ⑪稲作を行っている。 | Q4…人口稠密地域と 7 月の降水量の分布がよく似ていることを掴ませる。<br><br>地図帳 p77~90にある分布図から人口分布に似たものを見つけさせる。<br><br>【関】<br>〈評価方法〉<br>発問・挙手・発言<br><br>〈評価方法〉人口密度が高いことに対する授業後のミニ論文をプリントに書かせる。<br>【思】 |                           |

|            |                                                                                                |                 |
|------------|------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------|
|            | ※稲作の特徴について、畑作と比較しながら連作ができることや長江流域では古くから栽培されていたことなどを理解させる。                                      |                 |
| まとめ<br>50分 | モンスーンによる十分な降水が沖積低地をつくり、また湿地性のイネの栽培を可能としている。熱帯アジアにおいて、モンスーンが人口稠密地域を形成させる Key であることを、日本の稲作で確認する。 | ・日本の水田について例示する。 |

<指導上のポイントと考察>

- ・単元の垣根を超えた視点を持ち、知識と知識をつなぐ力を育てることをねらいとしている。そして、生徒がおもしろいと感じる内容となるように次の点を考慮した。尚、授業の構成においては、岐阜大学の野元世紀先生から指導を頂いた。

- (1) 人口の多い国々と日本の人口密度を調べることにより授業参加のきっかけとする。  
人口が多い国と人口密度が高い国はその持つ意味が異なっている。この授業では人口密度をもとにして展開する。  
どういう環境が多くの人を養えることができるのか、多くの人が生活できるための要因を考えるのに人口密度が適した尺度といえる。

- (2) 人口が多いことや人口密度が高いことは暗いイメージがあることをこの授業で覆すことを試みた。人口の学習では人口が多いことは貧しさと結びつくため良くないことと認識されていないだろうか。ところが、ある地域が多くの人を養えるためには、それなりの基盤が必要である。また人間がある地域に住み続けることが出来るのはそこには特別な理由があるといえる。発展途上国においては人口増加が問題となり、人口が多いことが悪いこととされているが、それが正しいとはいえないかもしれない。

人口が多いことはすぐれた文化である。その文化を解明することをこの授業の課題解決学習としたい。

ところで、授業のおもしろさは、スポーツのおもしろさと共通することがあるのではないだろうか。それは9回ツアーアウトランナー無しからの逆転勝ちのような筋書きのないドラマであり、そのことを、ベテランのある先生は、「生徒の予想を超えたところに結論があることに授業のおもしろさがあり、生徒の興味・関心が生まれる。理路整然としたストーリーは聞いていて納得は出来るが面白みに欠ける。授業においては、生徒の予想を覆すところに醍醐味がある。彼らの予想と学習内容とのギャップが大きければ大きいほど生徒はおもしろかったと感ずる」と指摘している。今回の授業で、人口が多いことは良くないことというイメージを持つ生徒に、人口が多いことの意味を考えさせることでおもしろさを伝えることをポイントとして実践した。

- (3) 本校で使用している教科書において、それぞれの単元は次のように構成されている。

| 「人口」         | 「気候」           | 「農業」               |
|--------------|----------------|--------------------|
| ①世界の人口分布     | ①世界の気候環境       | ①世界の農業地域           |
| ②世界の人口移動     | ②カリマンタン島の自然と生活 | ②タイの稲作農業           |
| ③インド・中国の人口問題 | ③サハラ砂漠の自然と生活   | ③国際化・情報化の進展        |
| ④スウェーデンの人口問題 | ④シベリアの自然と生活    | ④アメリカ合衆国の穀物農業      |
|              |                | ⑤フィリピンのバナナプランテーション |

従来の系統的地理の学習においては、気候と人口は「人間と環境」の単元において学習し、農業は「生活と産業」の単元で順に学ぶことになる。この授業では、インド（東南アジア）を地誌的にとらえることによって、二つの単元の垣根を越えて課題を考察することをねらいとしている。

<単元「世界の人口問題」の指導計画（全4時間）>

|      |               |
|------|---------------|
| 1時間目 | 「世界の人口分布」（本時） |
| 2時間目 | 「世界の人口移動」     |
| 3時間目 | 「インド・中国の人口問題」 |
| 4時間目 | 「スウェーデンの人口問題」 |

注(1) 生徒の一人一人の意見を認め、十分に彼らの考えを引き出すことに心がける。

注(2) 地図帳で場所を確認する。生徒の実態を考慮して地名は地図帳で確認することを習慣づける。

注(3) 人口が多いことに対する生徒の持っているイメージについて

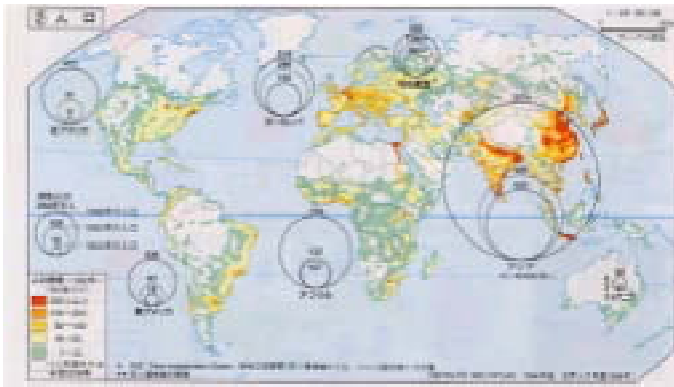
- ・プラス面
  - ①人がたくさんいるのは榮えていることなので、ほしいものが何でもある。
  - ②日本の東京、大阪などの都市は、地方より進んでいる
- ・マイナス面
  - ①都市に人が集まりすぎてスラム街ができています。
  - ②人口が増えているのは発展途上国
  - ③環境が悪い（スラム街のあるところ）
  - ④犯罪が多い（治安が悪い）

注(4) ①の地域の人口密度が高い理由を①'、②の地域の人口密度が高い理由を②' というように対応関係を持たせている。

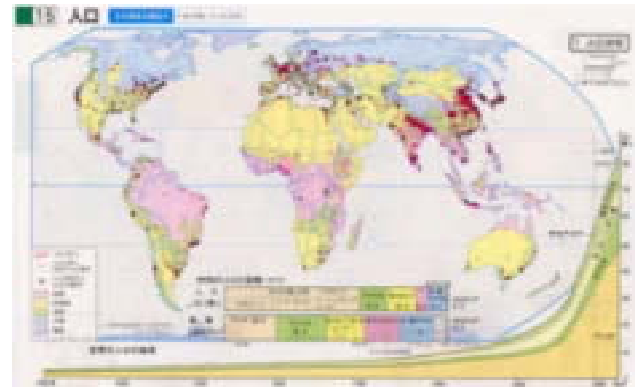
## 地理B

### 資(1)人口密度の分布図

- ・新詳高等地図（帝国書院）p83の人口密度の分布図は人口の地域的差異が分かりやすい。
- ・新高等地図（東京書籍）p15の人口分布図は1点10万人のドットマップとなっている。また世界地図に気候帯が着色してあるので、本授業には都合がよい。



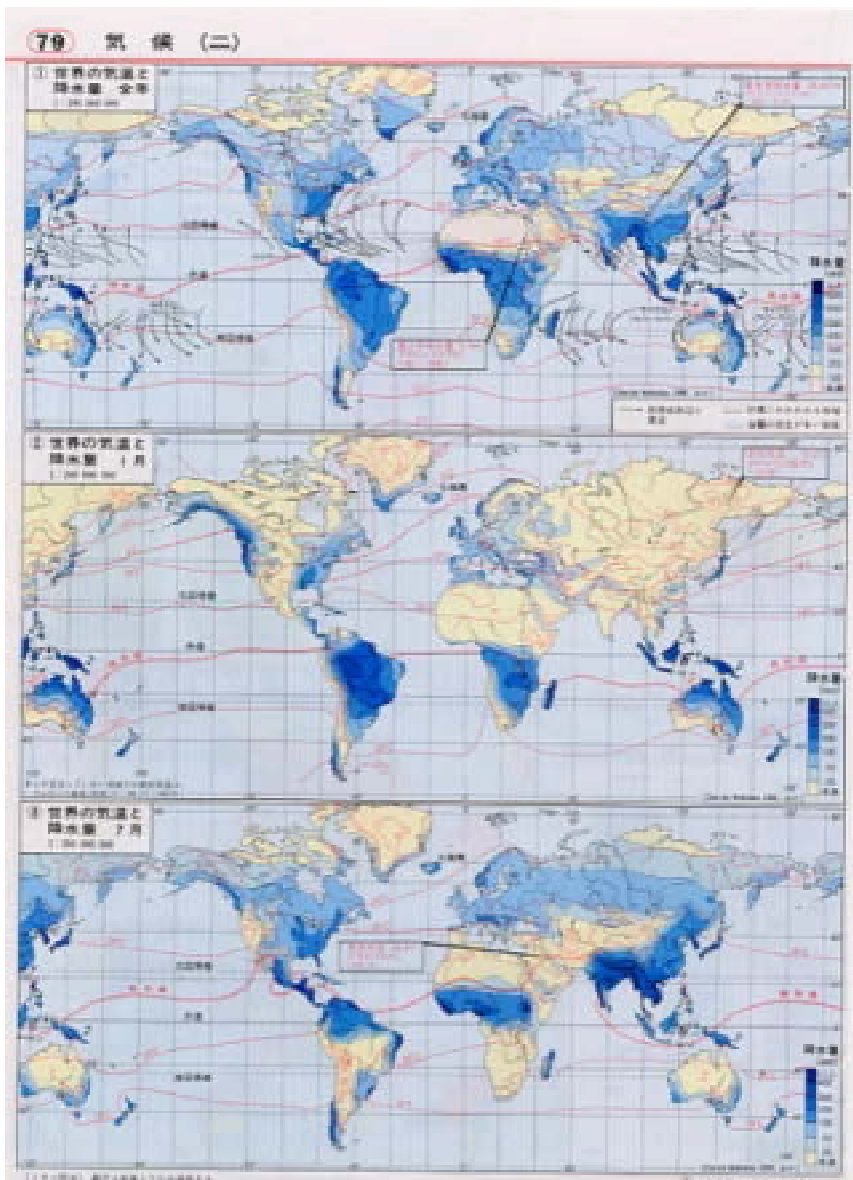
帝国書院の地図帳



東京書籍の地図帳

### 資(2)世界の気温と降水量

- ・新詳高等地図（帝国書院）p79には、①世界の全年 ②1月 ③7月の降水量の分布図が掲載されている。どの図も同様に見えるが、1月の降水量の分布図は、インド付近を注目した場合この時期は乾季にあたりほとんど降水がないので、7月の降水量の分布図が最適といえる。



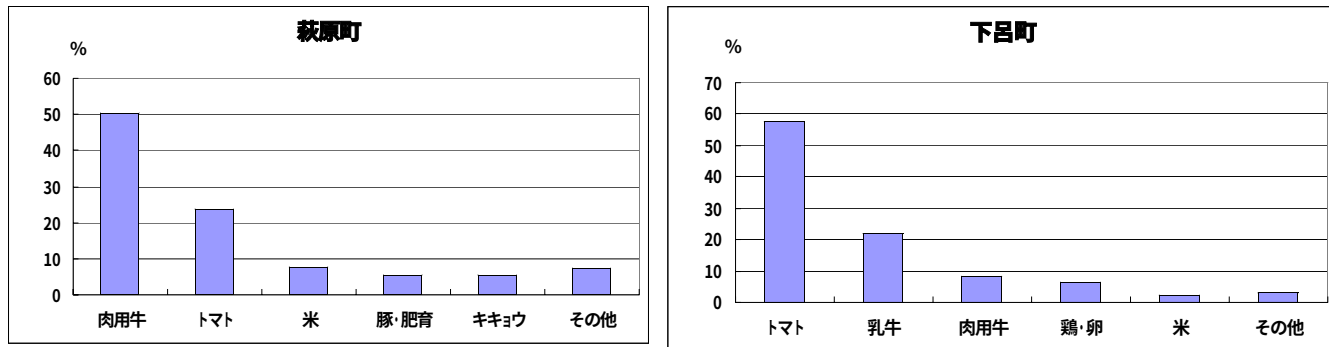
# 4 資料を利用して地域の特性に興味を持たせることに配慮した授業展開例

| 教科(科目)                                                      | 地歴 (地理 B )                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 単元名                                                                                                                                                                                                                                                     | 飛騨の農業 本時 (1 時間目 / 6 時) |
|-------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------|
| 本時の主題 飛騨の自然環境を生かした農業の特性                                     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                         |                        |
| 本時の目標                                                       | (1) 飛騨の農業特性を、自然環境を含めた固有の地理的条件と結びつけて説明できる力を養い、この事例をもとに他地域の理解に応用することを身に付ける。 【知識・理解】<br>(2) 飛騨の農業は、地域としてどのように位置付けと、将来の課題について考察する。 【思考・判断】                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |                                                                                                                                                                                                                                                         |                        |
| 指導のねらい                                                      | 学 習 活 動                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 指導上の留意点・観点別評価                                                                                                                                                                                                                                           |                        |
| ・ 本時の学習地域を確認させる。<br>5分 (経過時間)                               | ○飛騨の市町村を確認する。<br>Question1<br>飛騨の市町村の名前と位置が一致しますか。<br>町村名と地図の確認をポイントとする。 資料 (5)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | Q 1 …本校の過半数の生徒は益田郡の多く市町村から通っていることに関連させて関心を持たせる。                                                                                                                                                                                                         |                        |
| ・ 飛騨の農業の特徴を理解させる。<br><br>・ 地域における農業の基幹的役割を理解させる。<br><br>20分 | ○主要な飛騨の農産物を考察する。<br>Question 2<br>グラフの空欄に入る農産物名は何か。<br>・ グラフは益田郡の農産物の出荷額を棒グラフにしたもの<br>S : ①牛、米、トマト、ほうれんそう、などと答える。<br>・ 益田郡の町村の主な農産物を確認する。 資料 (1)<br>○飛騨の自然環境の特性を理解する。<br>飛騨の気温と降水量を岐阜市、松本市と比較して、その特徴を考察する。 資料 (2)<br>①岐阜市は暖かい。(5℃ぐらい違う) → 冷涼<br>②松本市より降水量が多い。 → 多雨<br>・ 野菜や果樹栽培において、夏冷涼であることは甘味のある作物を作るための必要条件であることを理解する。<br>・ トマトには十分な灌水が必要のため、飛騨とよく似ている長野と飛騨の気候を理解させる。                                                                                                           | Q 2 …5 択のクイズ形式で農産物名を考えさせる。<br><br>・ 自分たちが生活している地域の自然環境の特性をイメージする。<br><br>・ 過疎の村においても日本一のトマト産地となれることを感動を持って伝える。                                                                                                                                          |                        |
| ・ 不利な自然条件をどのように克服したのか考察させる。<br><br>30分<br>・ 飛騨の農業の課題を考察させる。 | ○飛騨のトマト生産が日本一であることを理解させる。<br>Question 3<br>岐阜県とあるがどこが産地だろうか。<br>関西における市場占有率のグラフとを呈示する。 資料 (3)<br>S : ①私の近所にトマトのハウスがいくつもあつた。<br>→ 夏にトマトを生産しているのはほとんど飛騨地方であることを理解させる。<br>○丹生川村を例に自然をどのように生かし、さらにどのように工夫しながら、農業を行っているか考察する。資料 (4)<br>Question 4<br>2 枚 (①トマトのビニールハウス・②選果場) の写真からトマト栽培の工夫点を考えさせる。<br>・ 観点として、耕作地の整備として耕地の造成、栽培方法の工夫として雨よけ栽培、出荷施設の充実として選果場の新設などが挙げることができる。<br>○丹生川村 (飛騨) の農業の今後について考える。<br>Question 5<br>日本一の丹生川トマトのに心配なことはないだろうか。<br>S : ①中国、韓国との競合 ②高齢者増加の心配 ③過疎化への対応 | Q 3 …夏から秋かけて関西の市場において岐阜産のトマトのシェアが40%越えていることに注目させる。<br><br>・ 丹生川村のトマト生産の推移のグラフから、工夫の効果を理解させる。<br>・ ビニールハウスでのトマト栽培と近代的な選果場の写真を呈示し、参考とさせる。<br>・ 飛騨の農業特性を、自然環境を含めた固有の地理的条件と結びつけて説明する。 【知】<br><評価方法><br>発問・挙手・発言<br><br><評価方法><br>ミニ論文で考えをまとめさせ、事後に確認する。 【思】 |                        |
| まとめ<br>50分                                                  | ・ 本時の内容を農業を考える上での範例とし、次時以降の世界の農業を学習することを予告する。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | ○本時以降の問題提起を行う。                                                                                                                                                                                                                                          |                        |

《指導上のポイント》

- ・今回の授業では授業者が調査したワークシートを使って授業を構成している。  
テキストは、「収束的な課題をたて、それを核心として地域をまとめていく方法」で構成してある。  
また、その中に、現代的な諸問題を取り入れることにも留意している。  
テキストを利用した理由は、資料読解力をつけるのに適していることと課題追究型の学習を行う力を身に付けるのに適していることといえる。
- ・丹生川村のトマト栽培は生産量において日本一といわれる。自然をどのように利用し、その地域にあった農業をつくっていったのかを知ることで、日本の農業全体へ考えをを広げさせたい。

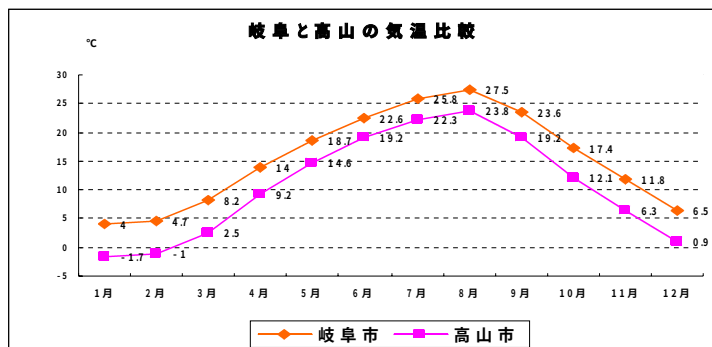
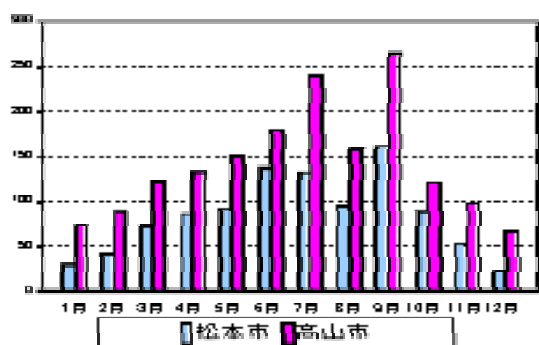
資料（１）「益田郡の農産物」



この他に馬瀬村・小坂町・金山町についても呈示する

資料（２）「高山の気温と降水量」

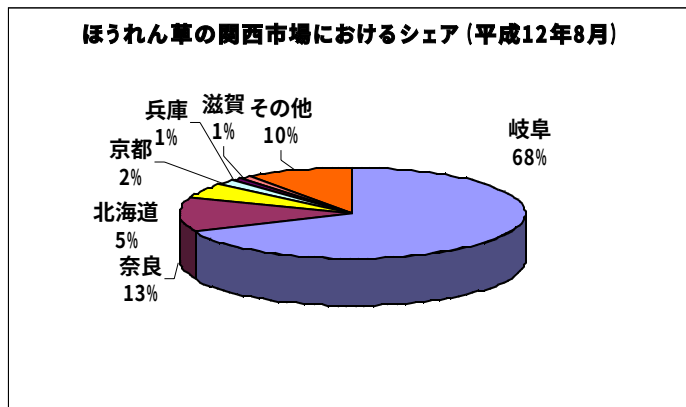
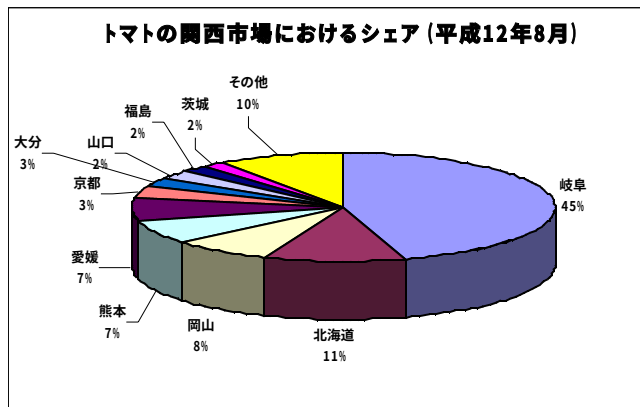
データは高山測候所より入手し、表計算ソフトで加工したもの。気温では、高山の気温が平均 5℃高いことを、普段の生活実感から理解させる。降水量では高山（年降水量1702.3mm）と同様の内陸高冷地といえる松本（年降水量1018.6mm）との比較で降水量の差を理解させる。この二つのグラフから高山は冷涼で降水量が多い地域といえる。



資料（３）「トマトとほうれんそうの生産量」

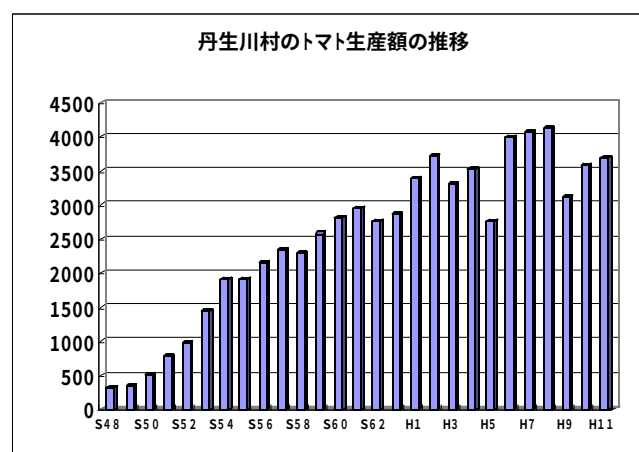
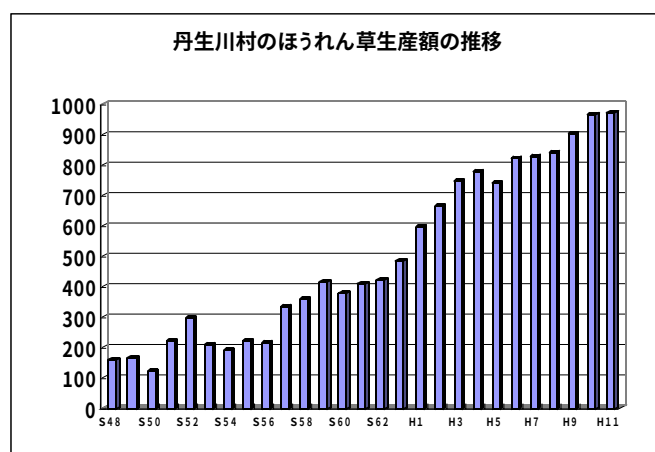
データは『飛騨高冷地青果物販売』より入手し、表計算ソフトで加工したもの。トマトは関西の市場において8月から9月までは40～50%のシェアを持つ。ほうれんそうは5月から10月まで40～70%のシェアを持つ。

（注）高山は飛騨と読みかえる。



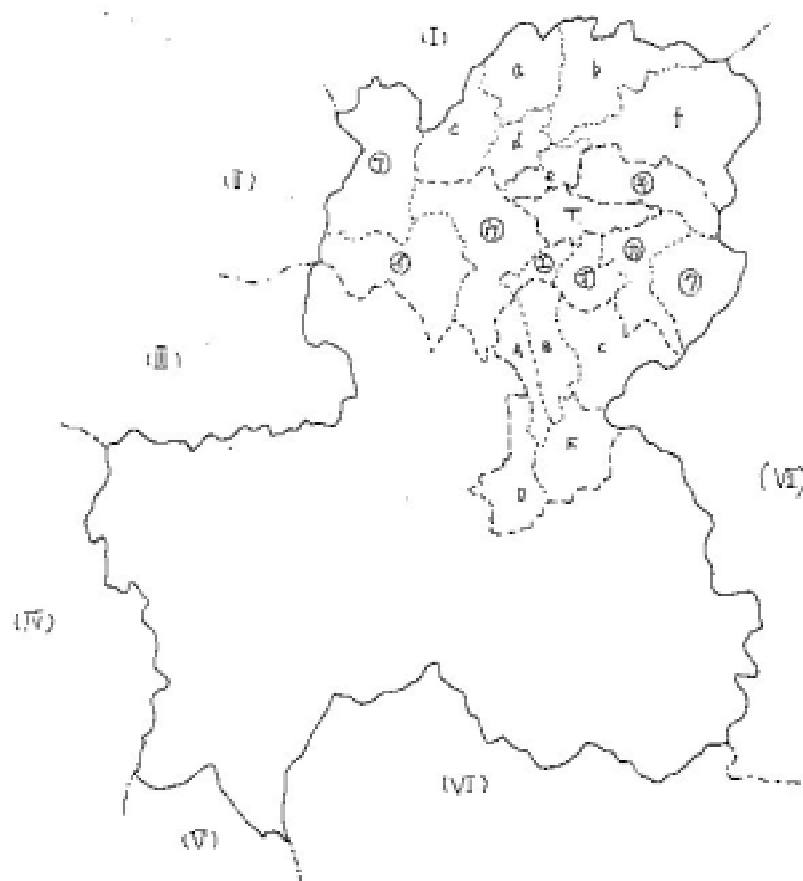
資料（４）「丹生川村のトマトとほうれん草」

データは『農業普及書』より入手し、表計算ソフトで加工したもの。順調に生産量が増えていることに注目させ、その理由を考えさせる。



資料（５）飛騨の市町村地図

この資料は毎年、地理の授業を始めるにあたり配付している。今回は授業の導入として利用した。



< 単元「世界の農牧業地域」の指導計画（全 6 時間） >

- |       |                     |        |
|-------|---------------------|--------|
| 1 時間目 | 「飛騨の農業」             | (本時)   |
| 2 時間目 | 「世界の農業地域」           |        |
| 3 時間目 | 「タイの稲作農業」           |        |
| 4 時間目 | 「国際化・情報化の進展」        |        |
| 5 時間目 | 「アメリカ合衆国の穀物農業」      |        |
| 6 時間目 | 「フィリピンのバナナプランテーション」 | (実物教材) |

## 「上向きの授業スパイラル構築をめざして」

教材開発実践事例を作成するにあたり、「この時間の中で何をテーマにして授業を行い、どのようなことを生徒に理解させるのか。」というねらいを持ち、次の7項目を絶えず自問しながら50分間の授業に取り組んだ。

- ①「何故この発問がここで必要なのか。」
- ②「発問に対して答えを導き出すために必要な資料は何か。」
- ③「予想される答えは何か。」
- ④「発問には全体へアンケート的に挙手させるのか個人的に指名するのか。」
- ⑤「これは板書して確認すべきことなのか。」
- ⑥「ここが授業のポイントであるが、上手く説明できただろうか。」
- ⑦「最後に今日のテーマを理解させることが出来たのか。」

このような授業点検を行いながらの授業は、「何をどこまでできるようになったのか、また考えられるようになったのか」を、その時間内に生徒自身と教師自身に評価をする機会を与える。その評価を利用することで、すぐに次の授業に生かすことができる。すなわち、日々の授業において、生徒がわかる授業を創ることができ、分かるからおもしろい、おもしろいから学ぶという、「上向きの授業スパイラル」を構築していけるのではないだろうか。

さて、私は教員生活20年の区切りとして、岐阜大学の大学院で学ぶ機会を持った。1年次では、主に気候を中心にした自然地理学やドイツ地誌学などの地理の専門学を受講し、2年次では、「岐阜県河合村の人口特性」というテーマでの研究を行った。

この実践事例の4案は従前の授業実践だけでなく、大学院での研修の成果を加味して作成したものである。

授業案の第1案に取り入れている内容は、私の論文のテーマ設定の動機にあたる部分である。同じ調査を「岐阜市」で行うと、世帯によって高齢家族と大学生などの単身世帯の2極分化が見られることが予測でき、地方都市の実情がわかるかもしれない。

大学院の講義を柱にしてつくった授業が第2案と第3案である。

第4案は、地理の教員として“地域から学ぶ”という視点を大切にしているのだが、その中から作ったものである。トマト生産が日本一の丹生川村だけでなく、岐阜県の各地には農業特産品が多くある。糸貫町の柿、高鷲村の大根、美濃加茂市の日本梨、各務ヶ原のにんじん、瑞浪市の採卵鶏など教材化できる事例のヒントとなると考える。

「個々の教師が蓄えている授業実践を、共有できる仕組みが学校間にあるか」と問うてみると、十分に整っているとは言えないかもしれない。そんな意味で、この教材開発検討委員会による取組が、広く活用され、相互の交流の契機となれば幸いである。